

授業科目名(英文名)	都市基盤工学特論B (Advanced Urban Infrastructure Engineering B)				
担当者名	吉村 充功				
学年	1	学期	後期	必修選択	選択
教科書	なし				
目的または到達目標	21世紀に入り、社会経済活動の高度化、価値観の多様化が進み、都市基盤である道路や鉄道などの事業(プロジェクト)のあり方は大きく変わってきています。そのため、これまでの事業単体を考えるだけでなく、複雑な社会現象をシステムとして把握していく必要があります。本講義では、土木計画や関連する諸分野を横断しながら、21世紀の社会とされる知識社会で必要となる社会基盤、都市基盤とは何かを様々な視点から解説、実例を示しながら講義を行います。知識社会で必要とされる社会基盤、都市基盤について自分自身で考えられるようになることを目標とします。				
授 業 内 容	第1回 ガイダンス、概論 知識社会の出現 第2回 知識社会におけるインフラ(1) インフラストラクチャとは 第3回 知識社会におけるインフラ(2) インフラストラクチャ整備の重要性 第4回 知識社会と新しい消費パターン(1) 消費理論 第5回 知識社会と新しい消費パターン(2) 消費行動 第6回 知識社会と新しい生産パターン(1) 生産理論 第7回 知識社会と新しい生産パターン(2) 生産様式 第8回 知識社会におけるコミュニケーション(1) 交通・通信とコミュニケーション 第9回 知識社会におけるコミュニケーション(2) 交通行動分析 第10回 知識社会における大都市(1) 大都市の役割 第11回 知識社会における大都市(2) 都市の空間構造 第12回 知識社会における地方都市(1) 地方都市とサービス生産 第13回 知識社会における地方都市(2) 地方都市の活力 第14回 国際化時代と都市の発展(1) 国際的知識社会の構造 第15回 国際化時代と都市の発展(2) 都市・地域計画の新しいパラダイム 第16回 期末試験				
関連科目	都市基盤工学特論A				
受講心得	数学モデルなどの理論が出てくるため、出席するだけでは単位取得できません。				
課題・質問等の受付方法	質問はいつでも受け付けます。また、e-mail(yoshimuramt@nbu.ac.jp)、ユニバーサルパスポートでも受け付けます。				
授業の形式	パワーポイントを用いた講義を実施します。				
履修上の注意または履修条件	なし				
成績評価の方法	演習レポート(20点)及び期末試験(80点)により総合的に評価します。				
参考文献及び指定図書	知識社会と都市の発展(森北出版) 小林潔司 他 編著				